

自己紹介します！

أبا ميكو ساكاي
—ナア

Je suis Mikiko Sakai.
ジュ スイ

I am Mikiko Sakai.

なんて書いてあるのでしょうか？

答えは…「**私は酒井美規子です。**」という意味です。

アラビア語で自己紹介するときは**アナー**(名前)、

(日本語と逆で、右から左へ書きます)

フランス語で言うときは**ジュ スイ**(名前)、

英語では**アイ アム**(名前)、です。

私は今、フランス語を猛勉強中ですが、今後アラビア語も勉強します。何で？何のために？何するの？ということは、これから少しずつ紹介していきます。



せいねんかいがいきょうりょくたい 「青年海外協力隊」を知っていますか？

日本では、学校に行けば先生がいて、教科書があって、しっかりと勉強することができます。病院に行けばお医者さんや看護師さんがいて診察してくれて、薬剤師さんから薬をもらうことができますね。赤ちゃんが生まれるときは病院で助産師さんが手伝ってくれます。骨折などのけがをすればリハビリをしてくれる作業療法士や理学療法士がいて、ねんざなどクラブでけがをすれば鍼灸マッサージ師さんにお世話になることもあります。ゴミは分別されて再利用されます。

でも世界には「日本では当たり前なのが当たり前ではない」国がたくさんあります。例えば…

- ・病院で看護師さんが消毒や治療の手伝いができない。
- ・病院が果てしなく遠いところにあり、具合が悪くても診てもらえない。
- ・薬剤師がいなくて、薬がもらえない。いつ、どれだけ飲むか不明。
- ・赤ちゃんが衛生的ではない自宅などで生まれて、亡くなってしまう。
- ・リハビリの知識がなくて、ずっと後遺症が残ってしまう。
- ・教科書がない。
- ・音楽・図工・体育という授業がない。
- ・町にゴミがあふれていて、ゴミがくさって虫がわいて健康に悪い。

など、放っておけば、赤ちゃんや子どもが亡くなってしまったり、元気に働けるはずなのに働けずに生活に困ったり、勉強してやりたい仕事につきたいと思ってもその機会が得られずに一生を終えてしまうこともあります。



青年海外協力隊は、海外に行って、困っている人々に、いろいろな知識や技術を教える仕事です。私は青年海外協力隊の一員として秋からモロッコの小学校で音楽・体育・図工を教える予定です。秋からの出発に向けて、今、私は、福島県二本松市にある青年海外協力隊訓練所で世界の27ヵ国に行く予定の172人の青年海外協力隊訓練生と共に、現地で使う言葉や生活するときに注意すること、健康管理などを勉強しています。172人の仲間の中には、看護師、助産師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、小中高校の先生、音楽・体育の先生、バレーボールやサッカーをずっと頑張ってきた人、幼稚園の先生、市役所で働いていた人、テレビ局やラジオ局で番組を作っていた人、牛を育てる酪農の仕事をしていた人、パソコンの使う仕事をしていた人、自動車の会社で働いていた人、下水道整備の仕事をしていた人、大学を卒業した人など、いろいろな経験を持った人が、その経験を世界の人に伝える準備をしています。どのような準備をするのか、そしてモロッコでの活動などいろいろなことをみなさんに伝えていきたいと思います。